

令和7年度 流山市在宅医療介護連携推進事業計画

位置づけ：高齢者支援計画（第9期：R6-R8年度） 対象：介護保険（要介護・要支援認定者、総合事業対象者、障害者）

理念	医療や介護が必要になっても、住み慣れた地域で、安心・安全に自分らしく生活ができる、希望すれば最期を自宅で迎えることができる			
長期目標	在宅療養を人生の最期まで支える24時間365日緊急対応可能な医療と介護の連携システムの構築を図る			
中期目標	①市民啓発	市民が在宅療養や人生会議（ACP）について知ることができる		
	②人生会議（ACP）推進	医療・介護の関係者が人生会議（ACP）に関する意思決定支援を実践できる		
	③情報共有	医療・介護の関係者間でスムーズに情報共有できる		
	④多職種連携	病院・在宅・施設・消防の関係者間で連携を深めることができる		
4つの場面	中期目標	対象	令和7年度計画	
共通	資源	本人・家族	GISを活用した介護保険事業者情報を更新する。	
		本人・家族	在宅医療に関する医療機関情報をGISで掲載し、定期的に更新する。	
		本人・家族	医療情報については「医療情報ネット（ナビイ）」を案内する。	
		本人・家族 専門職	在宅療養に関する情報に気軽にアクセスでき、見やすいホームページを目指し、随時更新する。	
		専門職	ハラスメント防止啓発のリーフレットを作成し、使用実態アンケートを実施。（R7. 2月末）アンケートの結果を踏まえ、使いやすいリーフレットを目指し、内容の見直しや改訂を検討する。	
		専門職	在宅療養支援診療所の実態把握調査を踏まえ作成した在宅医療提供医療機関パンフレットを病院関係者やケアマネジャーが活用し、患者紹介に役立てていただく。また、医療機関間の連携においても役立てていただく。	
	情報共有	専門職	多職種間での情報共有を円滑にするため、情報共有システムの活用を促進する。 たとえば、介護と医療をつむぐ会、看取り症例検討会などで情報共有システムについて周知するなど	
		専門職	事業所BCPIに基づいた災害時の情報共有のため、市内全介護保険事業所にIDを付与し、介護保険情報や研修開催情報などを市から随時発信することで情報共有システムを平時から使いこなせるようにする。（感染症・災害発生時）	
		専門職	情報共有システムの機能拡充：居宅・サービス事業所連携機能（ケアプランデータ連携）の導入にむけ介護サービス事業所向けの研修会を開催する。	
		専門職	デモ機を用いて操作する体験会や実際の活用事例紹介などの内容で情報共有システム研修会を開催する。	
	専門職	情報共有システムマニュアルの改訂を行い、手続きの簡略化を図り、利用促進につなげる。		
	多職種連携	専門職	在宅・病院・施設・消防の関係者が互いの専門性や支援の視点、認識など職域理解を促進する。	
日常の療養支援	多職種連携	専門職	介護と医療をつむぐ会を年4回開催する（4つの場面に沿ったテーマで開催する） 第1回 7/11 第2回10/4（市民公開講座と合同開催）第3回 12/12 第4回 2/12	
			介護と医療をつむぐ会の開催内容を情報共有システムやホームページに掲載し、参加できない専門職に情報を発信する。	
			介護と医療をつむぐ会において、病院関係者や新規開設した事業所等の新規参加者が増え、会の参加者が拡大するなど、会の活性化を図る。	
			在宅医療介護連携会議と介護と医療をつむぐ会の間で双方向のやり取りをすることで、PDCAサイクルが循環し、計画と現場の医療・介護関係者の課題認識の乖離を減らし、現場の声を反映した取り組みにつなげる。	
	市民啓発	本人 家族	市民公開講座の開催（第2回介護と医療をつむぐ会と合同開催） 日時： 令和7年10月4日（土） テーマ： 未定 開催内容：中期目標①市民啓発 ②人生会議（ACP）推進のための内容 開催方法：参集型・オンデマンド配信（内容などによって決定） 周知方法：若い世代の集客を図るには、情報にアクセスしやすいようLINE、メール、QRコードなどを活用する。	
			おうち療養情報紙の発行：市民公開講座の開催内容や人生会議に関する内容を掲載予定。	
			市民の依頼に基づいて、人生会議（ACP）をテーマとした内容で出前講座を開催する。	
	市民啓発 人生会議推進	本人 家族 専門職	幅広い世代への市民情報発信の方法を検討する。（ホームページやオンデマンド配信などを活用など）	
その他	専門職	対応に苦慮する困難ケースなど在宅医療・介護連携に関する相談窓口が介護支援課であることの周知を図る。		
	多職種連携	専門職	困難ケースの支援について、多職種で事例検討をする機会を設ける。（認知症）	
	その他	専門職	認知症初期集中支援チームで支援を行い、支援を行ったケースについて振り返るため、年1回認知症初期集中支援チーム検討部会を開催する。（認知症）	
入退院支援	情報共有	専門職	「流山版千葉県地域生活連携シート」のアンケート結果を受け、様式の改訂や今後の運用など検討する。	
	多職種連携	専門職	病院相談員連絡会に参加し、入退院支援の実態把握や連携に関する課題の抽出を行い、連携促進につなげる。（3回/年）	
急変時の対応	市民啓発	専門職	本人・家族・在宅関係者間で急変時の対応に関する取り決めを行うことを推進する。	
	情報共有	専門職	救急情報カードの定期更新の呼びかけと定位置への保管について推進する。	
	多職種連携	本人・家族	市民公開講座、出前講座、おうち療養情報紙等で人生会議（ACP）の普及啓発を図る。	
看取り	多職種連携	専門職	本人・家族が今後の看取りの経過や支援などについて共有できるように、医療・介護関係者向けに人生会議実践の対応力の向上のための研修会や、事例検討を開催する。	
		専門職	高齢者住まい看取りケア研修会の開催し、看取りに対する職員の不安軽減につなげる。（1回/年）	
		専門職	在宅療養・看取り推進のための症例検討会の開催により、圏域ごとのチーム作りを推進する。（4回/年）	
災害発生時	情報共有	専門職	地域支え合い活動及び要配慮者の個別避難計画作成について推進する。	
	多職種連携	専門職	災害時における要配慮者の安否確認及び福祉避難所への移送等について検討をする。	